

本の紹介

種田ことび 著 土屋 健 監修「ゆるゆる生物日誌

- はるか昔の進化がよくわかる」

ワニブックス, 151p, 2019年1月26日発行

1,000円(税別), ISBN978-4-8470-9763-8

この場でマンガをオススメするのが適切なのか悩む所ではあるが、本書を読み・紹介するにいたった経緯を説明すると、大学の新生を対象とした講義で、原始地球の形成から生命の誕生あたりまでを説明した際、普段は大人しい学生が教卓に近づいてきて「この辺りは中学生の頃に、ゆるゆる生物日誌を熟読していたので大変得意です」といきなり宣言したことに始まる。

彼がそこまで熱心に熟読する本とは一体どんな内容なのだろうと気になったので、その場で書名を教えもらいネットで注文した。彼曰く、同じ書名で続編として猿から人間への進化を描いた人類誕生編もあるらしいが「こちらの方が、圧倒的にロマンがある」らしい。

本書は『リアルサイズ古生物図鑑』などで有名な土屋健氏の監修で「生命の進化」を扱った内容である。40億年以上前、私たち祖先は一体何をやっていたのか、生命誕生から恐竜絶滅までの生命の進化の過程を対象としている。基本的にゆるいイラストで描いてあるので、古生物の知識が全く無くてもすらすら読め、きっと本当の歴史はもっと複雑なはずなのだろうな、と思いつつ生命の進化の歴史についてとりあえずのイメージを掴むことができるのがこの本の最大の特徴。

ゆるいイラストで描き出された世界の中で、DNAのキャラクターがコマの隅でのり煎餅を食べながら、生命の進化について解説してくれる、という形態で表現されている。しかし、そこは生物学や進化論の漫画や、挿絵のイラストを得意とされる著者、登場する生物たちは特徴を活かしたキャラクターとしてきちんと描き分けられ、魚の鱗や横隔膜が、どのような環境の変化によって獲得されていったのか説明されている。

自宅で読み終えて(じっくり読んでも1時間もあれば読み終わられる)放置しておいたら、次の日の朝、中学生になったばかりの息子も「その本全部読んだ、面白

かった」と感想を述べてくれた。どうやら表紙を飾る真核生物を名乗るキャラクターのゆるさに惹かれて興味を持ったとのこと。

本書では冒頭に、本編の前置きとして「生命の進化」について簡単な解説がある。本書の中では進化について「ストーリーの都合上、自らの努力で変化したような描写があるものの、実際には進化とは、突然変異に始まり、自然淘汰として環境の変化に有利な遺伝子が生き残り、世代を重ねるにつれて姿や形態が少しずつ変化していくことである」と、きちんと説明がなされている。近年の学生は、生命の進化について1996年にゲームボーイソフトとして登場したポケットモンスターの影響を強く受けており、進化という言葉について、特定の条件を満たすことで多くのポケモンのように姿を変えること、と誤解しているケースが多いので、ここは大事なポイント。

初学者がいきなり生命の歴史を勉強しようと、分厚い専門書を紐解くと眠くなり必ず挫折する。その道に入る際に大事なのは、全体の流れを知り、何かをもっと知りたいと興味を持つこと。そして、生命の進化の歴史を伝えるのに必ずしも実物の化石の写真や、詳細な生物の復元イメージ図は必要では無い、ということが本書を読んで感じた一番の感想である。

いずれにしても、もっと知りたいと興味を持つことが学問を始める最初の一歩としてはとても大切なので、本書を読んで生命の進化の流れを頭に入れた上で、気になった生物や現象があれば、ブルーバックスから出版されている「古生物たちのふしぎな世界(土屋健著)」など他の書籍にあたり、化石の写真や復元されたイメージ、それを説明する文章をしっかりと読んで、より興味や知識を深めていけばよい、と思える一冊。

(広島大学 吉富健一)

2025.06.16 受付

2025.11.21 学会ニュースレーター公開

2025.11.21 学会ホームページ公開